

2021 年度 シラバス (授業要覧)

仏教学科 Ⅰ 年生



科 目	真宗基礎学	開講時期 履修方法	1 年前期 選択、専門科目
担当者	青木 玲	授業形態 単位数	講義 2単位
授業概要	「浄土真宗を学ぶための漢文入門テキスト」をもとに、基本的な漢文法と仏教漢文の書き下しを学ぶ。		
到達目標	漢文の基礎を学び、仏教漢文の書き下しができるようになる。		
学習成果の 評価基準	到達目標に達しているか確認するために、到達目標確認試験を行い評価する。		
	授 業 計 画（ 授 業 内 容 ）	授業時間外学習 予習・復習	
1.	授業概要	「授業要覧」を読む	
2.	はじめての仏教漢文—漢和辞典の使い方—	テキストを読む	
3.	はじめての仏教漢文—漢文法を知る①—	テキストを読む	
4.	はじめての仏教漢文—漢文法を知る②—	テキストを読む	
5.	基本的な漢文法の確認 返り点・送り仮名・句読点 『大無量寿経』六成就の文①	テキストを読む	
6.	基本的な漢文法の確認 返り点・送り仮名・句読点 『大無量寿経』六成就の文②	テキストを読む	
7.	基本的な漢文法の確認 再読文字「当」 『大無量寿経』八相成道①—1	テキストを読む	
8.	基本的な漢文法の確認 再読文字「当」 『大無量寿経』八相成道①—2	テキストを読む	
9.	基本的な漢文法の確認 使役「使」 『大無量寿経』八相成道②—1	テキストを読む	
10.	基本的な漢文法の確認 使役「使」 『大無量寿経』八相成道②—2	テキストを読む	
11.	基本的な漢文法の確認 助字「如・応」 『十住毘婆沙論』「易行品」①—1	テキストを読む	
12.	基本的な漢文法の確認 助字「如・応」 『十住毘婆沙論』「易行品」①—2	テキストを読む	
13.	基本的な漢文文法の確認 「未・況」 『十住毘婆沙論』「易行品」②	テキストを読む	
14.	到達目標確認試験	テキストを読む	
15.	まとめ	テキストを読む	
教科書	『真宗聖典』『真宗聖教全書』—「浄土真宗を学ぶための漢文入門テキスト」『新漢語林』		
参考書			
学習成果の 評価方法	受講態度（50％）到達目標確認試験（50％）		
特記すべき 事項			
質問・相談等 の 受 付			

科 目	真宗学Ⅰ	開講時期 履修方法	1年前期 選択、専門科目
担当者	青木 玲	授業形態 単位数	講義 2単位
授業概要	「正信偈」を読むことを通して、親鸞が明らかにした仏道を学ぶ。前期は、依経段の弥陀章を読んでいく。		
到達目標	「正信偈」の内容を踏まえて、勤行ができるようになる。		
学習成果の 評価基準	到達目標に達しているか確認するために、到達目標確認試験を行い評価する。		
	授 業 計 画（ 授 業 内 容 ）	授業時間外学習 予 習 ・ 復 習	
1.	授業概要	『授業要覧』を読む	
2.	「正信偈」とは何か	『正信偈』を読む	
3.	偈前の文	『正信偈』を読む	
4.	帰命無量寿如来	『正信偈』を読む	
5.	南無不可思議光	『正信偈』を読む	
6.	法蔵菩薩因位時	『正信偈』を読む	
7.	五劫思惟	『正信偈』を読む	
8.	名声十方に聞こえん	『正信偈』を読む	
9.	十二光	『正信偈』を読む	
10.	本願名号正定業	『正信偈』を読む	
11.	至心信楽の願	『正信偈』を読む	
12.	現生正定聚	『正信偈』を読む	
13.	必至滅度の願	『正信偈』を読む	
14.	到達目標確認試験	前期の復習	
15.	前期のまとめ	前期の復習	
教科書	『真宗聖典』『正信偈』		
参考書			
学習成果の 評価方法	受講態度（50％）到達目標確認試験（50％）		
特記すべき 事項			
質問・相談等 の 受 付			

科 目	真宗学Ⅱ	開講時期 履修方法	1年後期 選択、専門科目
担当者	青木 玲	授業形態 単位数	講義 2単位
授業概要	「正信偈」を読むことを通して、親鸞が明らかにした仏道を学ぶ。後期は、依経段の釈迦章を読んでいく。		
到達目標	「正信偈」の内容を踏まえて、勤行ができるようになる。		
学習成果の 評価基準	到達目標に達しているか確認するために、到達目標確認試験を行い評価する。		
	授 業 計 画（ 授 業 内 容 ）	授業時間外学習 予習・復習	
1.	弥陀章と釈迦章	『正信偈』を読む	
2.	出世本懐①	『正信偈』を読む	
3.	出世本懐②	『正信偈』を読む	
4.	不断煩惱得涅槃	『正信偈』を読む	
5.	五逆・謗法・闍提	『正信偈』を読む	
6.	海一味	『正信偈』を読む	
7.	摂取の心光	『正信偈』を読む	
8.	貪愛・瞋憎の雲霧	『正信偈』を読む	
9.	獲信見敬大慶喜①	『正信偈』を読む	
10.	獲信見敬大慶喜②	『正信偈』を読む	
11.	分陀利華	『正信偈』を読む	
12.	邪見憍慢愚衆生	『正信偈』を読む	
13.	難中の難	『正信偈』を読む	
14.	到達目標確認試験	後期の復習	
15.	後期のまとめ	後期の復習	
教科書	『真宗聖典』『正信偈』		
参考書			
学習成果の 評価方法	受講態度（50％）到達目標確認試験（50％）		
特記すべき 事項			
質問・相談 の 受 付			

科 目	真宗学Ⅴ	開講時期 履修方法	1年後期 選択、専門科目
担当者	調 友希雄	授業形態 単位数	講義 2単位
授業概要	親鸞聖人が制作された「和讃」のなかから、本学の御命日勤行でも読まれる「弥陀成仏のこのかたは」からはじまる和讃六首と、報恩讃で読まれる「弥陀大悲の誓願を」からはじまる和讃六首をノートを作りながら読み、その内容を学んでいく。		
到達目標	・「和讃」とは何かを理解する。 ・「弥陀成仏のこのかたは」からはじまる和讃六首と報恩讃で読まれる「弥陀大悲の誓願を」からはじまる和讃六首の内容を理解し、そこから問われていることについて考えることができる。		
学習成果の 評価基準	「和讃」とは何かの理解の達成度を測るために、到達度確認の小テストを実施し評価する。 「和讃から問われていることについて考えることができる」の達成度を測るために、発表を「受講態度」の評価とし、授業内試験において6割以上の解答ができることを評価基準とする。		
	授 業 計 画（ 授 業 内 容 ）	授業時間外学習 予習・復習	
1.	ガイダンス・授業概要の確認	授業要覧を読む	
2.	和讃とは何か①	『親鸞和讃集』を読む	
3.	和讃とは何か②・「和讃とは何か」についての小テスト	『親鸞和讃集』を読む	
4.	浄土和讃「弥陀成仏のこのかたは」	ノートを作成する	
5.	浄土和讃「智慧の光明はかりなし」	ノートを作成する	
6.	浄土和讃「解脱の光輪きわもなし」・ここまでの和讃についての小テスト	ノートを作成する	
7.	浄土和讃「光雲無碍如虚空」	ノートを作成する	
8.	浄土和讃「清浄光明ならびなし」	ノートを作成する	
9.	浄土和讃「仏光照曜最第一」・ここまでの和讃についての小テスト	ノートを作成する	
10.	正像末和讃「弥陀大悲の誓願を」・「聖道門のひとはみな」	ノートを作成する	
11.	正像末和讃「釈迦の教法ましませど」・「三朝浄土の大師等」	ノートを作成する	
12.	正像末和讃「他力の信心うるひとを」・「如来大悲の恩徳は」・ここまでの和讃について の小テスト	ノートを作成する	
13.	これまでの学習内容の振り返り（和讃についての発表）	ノートを振り返り整理する	
14.	これまでの学習内容とその受け止めについての授業内試験	ノートを振り返り整理する	
15.	授業内試験についての振り返り	試験内容を復習する	
教科書	『真宗聖典』、『真宗聖教全書一』、『岩波仏教辞典』、『新漢語林』、『古語林』、配布テキスト、『親鸞和讃集』、『大谷派勤行集』（赤本）		
参考書			
学習成果の 評価方法	受講態度（30％） 小テスト（30％） その他【授業内試験】（40％）		
特記すべき 事項			
質問・相談 の受付			

科 目	真宗聖教講読Ⅰ	開講時期 履修方法	1年前期 必修、専門科目
担当者	中島 航	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	前期は『歎異抄』の前序、第一条、第二条、第三条を学ぶ。音読やノート作成しながら語句の理解や基本的な仏教に関する知識を習得するとともに、親鸞聖人の考え方も学ぶ内容である。		
到達目標	聖教を読む力を身につけることができる。また親鸞聖人の言葉を通して真宗の学びに関する基礎的な内容を身につけることができる。		
学習成果の 評価基準	授業態度として、授業中のノート作成や積極的に音読を実施しているかを確認する。また授業の予習としてノート作成を実施できているかも確認する。 さらに授業内容を習得できているかについて定期的に小テストを実施し評価する。		
	授 業 計 画（ 授 業 内 容 ）	授業時間外学習 予習・復習	
1.	ガイダンス ノート作成や前期授業の進め方について	シラバスを読んでおく	
2.	『歎異抄』の概要を知る	テキストを読んでおく	
3.	前序 ① 音読ができ、語句の意味を理解する	ノート作成、音読	
4.	前序 ② 音読ができ、語句の意味を理解する	ノート作成、音読	
5.	前序 ③ 音読ができ、語句の意味を理解する 小テスト	ノート作成、音読	
6.	第一条 ① 音読ができ、語句の意味を理解する	ノート作成、音読	
7.	第一条 ② 音読ができ、語句の意味を理解する	ノート作成、音読	
8.	第一条 ③ 音読ができ、語句の意味を理解する 小テスト	ノート作成、音読	
9.	第二条 ① 音読ができ、語句の意味を理解する	ノート作成、音読	
10.	第二条 ② 音読ができ、語句の意味を理解する	ノート作成、音読	
11.	第二条 ③ 音読ができ、語句の意味を理解する 小テスト	ノート作成、音読	
12.	第三条 ① 音読ができ、語句の意味を理解する	ノート作成、音読	
13.	第三条 ② 音読ができ、語句の意味を理解する	ノート作成、音読	
14.	第三条 ③ 音読ができ、語句の意味を理解する	ノート作成、音読	
15.	まとめ 小テスト	ノート作成、音読	
教科書	『歎異抄』（東本願寺出版）、		
参考書	『真宗聖典』、『歎異抄講義（上）』三明智彰（法蔵館）、『古語林』、『新漢語林』、『岩波仏教辞典』		
学習成果の 評価方法	授業態度（40％）、授業予習復習（30％）、小テスト（30％）		
特記すべき 事項			
質問・相談等 の 受 付			

科 目	真宗聖教講読Ⅱ	開講時期 履修方法	1年後期 必修、専門科目
担当者	中島 航	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	後期は『歎異抄』の第四条～第十条までを学ぶ。音読やノート作成しながら語句の理解や基本的な仏教に関する知識を習得するとともに、親鸞聖人の考え方も学ぶ内容である。		
到達目標	聖教を読む力を身につけることができる。また親鸞聖人の言葉を通して真宗の学びに関する基礎的な内容を身につけることができる。		
学習成果の 評価基準	授業態度として、授業中のノート作成や積極的に音読を実施しているかを確認する。また授業の予習としてノート作成を実施できているかも確認する。 さらに授業内容を習得できているかについて定期的に小テストを実施し評価する。		
	授 業 計 画（ 授 業 内 容 ）	授業時間外学習 予 習 ・ 復 習	
1.	ガイダンス 後期授業の進め方について	シラバスを読んでおく	
2.	前序～第三条までの振り返り	前期のノートを復習しておく	
3.	第四条 ① 音読ができ、語句の意味を理解する	ノート作成、音読	
4.	第四条 ② 音読ができ、語句の意味を理解する	ノート作成、音読	
5.	第五条 ① 音読ができ、語句の意味を理解する	ノート作成、音読	
6.	第五条 ② 音読ができ、語句の意味を理解する 小テスト	ノート作成、音読	
7.	第六条 ① 音読ができ、語句の意味を理解する	ノート作成、音読	
8.	第六条 ② 音読ができ、語句の意味を理解する	ノート作成、音読	
9.	第七条 ① 音読ができ、語句の意味を理解する	ノート作成、音読	
10.	第七条 ② 音読ができ、語句の意味を理解する 小テスト	ノート作成、音読	
11.	第八条 ① 音読ができ、語句の意味を理解する	ノート作成、音読	
12.	第八条 ②、 第九条 ① 音読ができ、語句の意味を理解する	ノート作成、音読	
13.	第九条 ② 音読ができ、語句の意味を理解する	ノート作成、音読	
14.	第九条 ③ 音読ができ、語句の意味を理解する	ノート作成、音読	
15.	まとめ 小テスト	ノート作成、音読	
教科書	『歎異抄』（東本願寺出版）、		
参考書	『真宗聖典』、『歎異抄講義（上）』三明智彰（法蔵館）、『古語林』、『新漢語林』、『岩波仏教辞典』		
学習成果の 評価方法	授業態度（40％）、授業予習復習（30％）、小テスト（30％）		
特記すべき 事項			
質問・相談 の受付			

科 目	仏教学概説Ⅰ	開講時期 履修方法	1 年前期 必修、専門科目
担当者	高木友裕・三明智彰	授業形態 単位数	講義 2単位
授業概要	私たちは自分の思いに先立って願われている存在である。そのことを『大無量寿経』本願文（第一願から第五願）に尋ね、準備・講義・学習・攻究を通して明らかにしていく。この科目は「仏典講読Ⅰ」と連動して行われる。		
到達目標	本願文の学習を通して、すべての科目の基本軸として、出遇うべき仏教の精神を確認することができる。		
学習成果の 評価基準	到達目標に明示している「仏教の精神を確認することができる」の達成度を測るために、期末レポートを実施し評価する。		
	授 業 計 画（ 授 業 内 容 ）	授業時間外学習 予 習 ・ 復 習	
1.	ガイダンス：前期の授業の進め方	ノートを準備する	
2.	講義：仏教ってなに？	予習ノートを作成する（願文、書き下し文、語註）	
3.	攻究：仏教ってなに？	講義ノートを作成する	
4.	講義：本願ってなに？	予習ノートを作成する（願文、書き下し文、語註）	
5.	攻究：本願ってなに？	講義ノートを作成する	
6.	講義：第一願 無三悪趣之願	予習ノートを作成する（願文、書き下し文、語註）	
7.	攻究：どこから出発するの？	講義ノートを作成する	
8.	講義：第二願 不更悪趣之願	予習ノートを作成する（願文、書き下し文、語註）	
9.	攻究：どのように生きるの？	講義ノートを作成する	
10.	講義：第三願 悉皆金色之願	予習ノートを作成する（願文、書き下し文、語註）	
11.	攻究：平等ってどういうこと？	講義ノートを作成する	
12.	講義：第四願 無有好醜之願	予習ノートを作成する（願文、書き下し文、語註）	
13.	攻究：どうすれば差別の心を破れるの？	講義ノートを作成する	
14.	講義：第五願 宿命智通之願	予習ノートを作成する（願文、書き下し文、語註）	
15.	攻究：あなたはホントに自分がわかっていますか？	講義ノートを作成する	
教科書	『本願文（上）』（大阪教区伝研の会）、『真宗聖教全書 一』、『真宗聖典』		
参考書	『岩波仏教辞典』、『新漢語林』		
学習成果の 評価方法	受講態度（30％）授業内発表（20％）定期試験（30％）ノート提出（20％）		
特記すべき 事項			
質問・相談 の受付			

科 目	仏教学概説Ⅱ	開講時期 履修方法	1 年後期 必修、専門科目
担当者	高木友裕・三明智彰	授業形態 単位数	講義 2単位
授業概要	私たちは自分の思いに先立って願われている存在である。そのことを『大無量寿経』本願文（第一願から第五願）に尋ね、準備・講義・学習・攻究を通して明らかにしていく。この科目は「仏典講読Ⅱ」と連動して行われる。		
到達目標	本願文の学習を通して、すべての科目の基本軸として、出遇うべき仏教の精神を確認することができる。		
学習成果の 評価基準	到達目標に明示している「仏教の精神を確認することができる」の達成度を測るために、期末レポートを実施し評価する。		
	授 業 計 画（ 授 業 内 容 ）	授業時間外学習 予 習 ・ 復 習	
1.	ガイダンス 後期の授業の進め方	ノートを準備する	
2.	講義：第六願 天眼智通之願	予習ノートを作成する（願文、書き下し文、語註）	
3.	攻究：あなたはホントに眼差しを向けたことがありますか？	講義ノートを作成する	
4.	講義：第七願 天耳智通之願	予習ノートを作成する（願文、書き下し文、語註）	
5.	攻究：あなたはホントに耳を傾けて聞き取ったことがありますか？	講義ノートを作成する	
6.	講義：第八願 他心智通之願	予習ノートを作成する（願文、書き下し文、語註）	
7.	攻究：あなたはホントに人間がわかっていますか？	講義ノートを作成する	
8.	講義：第九願 神足智通之願	予習ノートを作成する（願文、書き下し文、語註）	
9.	攻究：あなたはホントに思いのままに行動できますか？	講義ノートを作成する	
10.	講義：第十願 漏尽智通之願	予習ノートを作成する（願文、書き下し文、語註）	
11.	攻究：あなたはホントに人間を敬愛できますか？	講義ノートを作成する	
12.	講義：第十一願 必至滅度之願(1)	予習ノートを作成する（願文、書き下し文、語註）	
13.	攻究：仏教は生き方を尋ねる道(1)	講義ノートを作成する	
14.	講義：第十一願 必至滅度之願(2)	予習ノートを作成する（願文、書き下し文、語註）	
15.	攻究：仏教は生き方を尋ねる道(2)	講義ノートを作成する	
教科書	『本願文（上）』（大阪教区伝研の会）、『真宗聖教全書 一』、『真宗聖典』		
参考書	『岩波仏教辞典』、『新漢語林』		
学習成果の 評価方法	受講態度（30％）授業内発表（20％）定期試験（30％）ノート提出（20％）		
特記すべき 事項			
質問・相談等 の 受 付			

科 目	仏教基礎学	開講時期 履修方法	1年後期 選択、専門科目
担当者	安武智丸	授業形態 単位数	講義 2単位
授業概要	帰依三宝（三帰依）を軸として、ブッダ釈尊の生涯から大乘仏教の興起までを概観していく。三帰依とは仏教徒であることの証しといわれるが、それは単に教義概念の一つに止まるものではない。今日まで伝承されたブッダの生涯の歩みそのものが、三宝を見出し、三宝に帰依する歩みでもあった。やがてその歩みは大乘仏教の興起へと相続されていくことになる。この仏教相続の歴史を学ぶことは、翻って私たちの仏教徒としての姿勢を問うことでもある。		
到達目標	ブッダ釈尊の生涯とその課題に触れながら、仏教の基本的な考え方や姿勢を学ぶ。また何をもってブッダ／仏教と言えるのか、大乘仏教の興起に尋ねていく。		
学習成果の 評価基準	到達目標の達成度を測るため、定期試験で6割以上の正答を求める		
	授 業 計 画（ 授 業 内 容 ）	授業時間外学習 予習・復習	
1.	三帰依Ⅰ 三宝／人生の宝もの	『大乘の仏道』を読む	
2.	三帰依Ⅱ 帰依／自立して生きる道	『大乘の仏道』を読む	
3.	ブッダ釈尊の生涯Ⅰ 降兜率：釈尊出世前史・インド伝統思想の課題と沙門の出現	『大乘の仏道』を読む	
4.	ブッダ釈尊の生涯Ⅱ 誕生：「人身受け難し、いますでに受く」	『大乘の仏道』を読む	
5.	ブッダ釈尊の生涯Ⅲ 処宮・出家：問題が課題となる	『大乘の仏道』を読む	
6.	ブッダ釈尊の生涯Ⅳ 苦行・降魔成道：私を苦しめるものの正体	『大乘の仏道』を読む	
7.	ブッダ釈尊の生涯Ⅴ 梵天勧請・初転法輪：「仏法聞き難し、いますでに聞く」	『大乘の仏道』を読む	
8.	ブッダ釈尊の生涯Ⅵ ブッダに出遇った人々：所化の衆生として	『大乘の仏道』を読む	
9.	ブッダ釈尊の生涯Ⅶ 入滅：終わりから始まるもの	『大乘の仏道』を読む	
10.	ブッダ釈尊の教えⅠ 縁起の道理：「無上甚深微妙の法」	『大乘の仏道』を読む	
11.	ブッダ釈尊の教えⅡ 四諦・八正道：法を行ずる	『大乘の仏道』を読む	
12.	ブッダ釈尊の教えⅢ 四法印：何をもって仏教と言い得るか	『大乘の仏道』を読む	
13.	大乘仏教の興起Ⅰ アビダルマ仏教：仏教の歴史が問うこと	『大乘の仏道』を読む	
14.	大乘仏教の興起Ⅱ 大乘の「再」発見：「我いま見聞し受持することを得たり」	『大乘の仏道』を読む	
15.	大乘仏教の興起Ⅲ 菩薩の歩み：「まさに願わくは衆生と共に」	『大乘の仏道』を読む	
教科書	『真宗聖典』『改訂大乘の仏道-仏教概要-』『改訂大乘の仏道-仏教概要-資料編』		
参考書			
学習成果の 評価方法	受講態度（30％） 授業内課題（10％） 定期試験（60％）		
特記すべき 事項			
質問・相談等 の受付			

科 目	仏典講読Ⅰ	開講時期 履修方法	1年前期 必修、専門科目
担当者	高木友裕	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	私たちは自分の思いに先立って願われている存在である。そのことを『大無量寿経』本願文（第一願から第五願）に尋ね、準備・講義・学習・攻究を通して明らかにしていく。この科目は「仏教学概説Ⅰ」と連動して行われる。		
到達目標	本願文の学習を通して、すべての科目の基本軸として、出遇うべき仏教の精神を確認することができる。		
学習成果の 評価基準	到達目標に明示している「仏教の精神を確認することができる」の達成度を測るために、定期試験を実施し評価する。		
	授 業 計 画（ 授 業 内 容 ）	授業時間外学習 予習・復習	
1.	ガイダンス：前期の授業の進め方	ノートを準備する	
2.	講義：仏教ってなに？	予習ノートを作成する（願文、書き下し文、語註）	
3.	攻究：仏教ってなに？	講義ノートを作成する	
4.	講義：本願ってなに？	予習ノートを作成する（願文、書き下し文、語註）	
5.	攻究：本願ってなに？	講義ノートを作成する	
6.	講義：第一願 無三悪趣之願	予習ノートを作成する（願文、書き下し文、語註）	
7.	攻究：どこから出発するの？	講義ノートを作成する	
8.	講義：第二願 不更悪趣之願	予習ノートを作成する（願文、書き下し文、語註）	
9.	攻究：どのように生きるの？	講義ノートを作成する	
10.	講義：第三願 悉皆金色之願	予習ノートを作成する（願文、書き下し文、語註）	
11.	攻究：平等ってどういうこと？	講義ノートを作成する	
12.	講義：第四願 無有好醜之願	予習ノートを作成する（願文、書き下し文、語註）	
13.	攻究：どうすれば差別の心を破れるの？	講義ノートを作成する	
14.	講義：第五願 宿命智通之願	予習ノートを作成する（願文、書き下し文、語註）	
15.	攻究：あなたはホントに自分がわかっていますか？	講義ノートを作成する	
教科書	『本願文（上）』（大阪教区伝研の会）、『真宗聖教全書 一』、『真宗聖典』		
参考書	『岩波仏教辞典』、『新漢語林』		
学習成果の 評価方法	受講態度（30％）授業内発表（20％）定期試験（30％）ノート提出（20％）		
特記すべき 事項			
質問・相談 の 受 付			

科 目	仏典講読Ⅱ	開講時期 履修方法	1年後期 必修、専門科目
担当者	高木友裕	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	私たちは自分の思いに先立って願われている存在である。そのことを『大無量寿経』本願文（第六願から第十一願）に尋ね、準備・講義・学習・攻究を通して明らかにしていく。この科目は「仏教学概説Ⅱ」と連動して行われる。		
到達目標	本願文の学習を通して、すべての科目の基本軸として、出遇うべき仏教の精神を確認することができる。		
学習成果の 評価基準	到達目標に明示している「仏教の精神を確認することができる」の達成度を測るために、定期試験を実施し評価する。		
	授 業 計 画（ 授 業 内 容 ）	授業時間外学習 予 習 ・ 復 習	
1.	ガイダンス 後期の授業の進め方	ノートを準備する	
2.	講義：第六願 天眼智通之願	予習ノートを作成する（願文、書き下し文、語註）	
3.	攻究：あなたはホントに眼差しを向けたことがありますか？	講義ノートを作成する	
4.	講義：第七願 天耳智通之願	予習ノートを作成する（願文、書き下し文、語註）	
5.	攻究：あなたはホントに耳を傾けて聞き取ったことがありますか？	講義ノートを作成する	
6.	講義：第八願 他心智通之願	予習ノートを作成する（願文、書き下し文、語註）	
7.	攻究：あなたはホントに人間がわかっていますか？	講義ノートを作成する	
8.	講義：第九願 神足智通之願	予習ノートを作成する（願文、書き下し文、語註）	
9.	攻究：あなたはホントに思いのままに行動できますか？	講義ノートを作成する	
10.	講義：第十願 漏尽智通之願	予習ノートを作成する（願文、書き下し文、語註）	
11.	攻究：あなたはホントに人間を敬愛できますか？	講義ノートを作成する	
12.	講義：第十一願 必至滅度之願(1)	予習ノートを作成する（願文、書き下し文、語註）	
13.	攻究：仏教は生き方を尋ねる道(1)	講義ノートを作成する	
14.	講義：第十一願 必至滅度之願(2)	予習ノートを作成する（願文、書き下し文、語註）	
15.	攻究：仏教は生き方を尋ねる道(2)	講義ノートを作成する	
教科書	『本願文（上）』（大阪教区伝研の会）、『真宗聖教全書 一』、『真宗聖典』		
参考書	『岩波仏教辞典』、『新漢語林』		
学習成果の 評価方法	受講態度（30％）授業内発表（20％）定期試験（30％）ノート提出（20％）		
特記すべき 事項			
質問・相談 の受付			

科 目	仏典講読Ⅲ	開講時期 履修方法	1年前期 選択、専門科目
担当者	吉元信暁	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	浄土三部経の中の『観無量寿経』の序分をノートを作りながら漢文で読み、その内容を学んでいく。前期は「発起序」の「禁母縁」までを読む。		
到達目標	・『観無量寿経』とは何かを理解することができる。 ・『観無量寿経』 「禁母縁」までを漢文でを声に出して読むことができる。 ・『観無量寿経』 「禁母縁」までの漢文を書き下すことができる。 ・漢和辞典や仏教辞典で経典の言葉を調べ、意味を取ることができる。		
学習成果の 評価基準	到達目標の達成度を測るために、読みのテストやノートチェックを実施し「受講態度」の評価とする。また、授業の合間に書き下し等の「小テスト」を実施し到達目標の達成度を評価する。		
	授 業 計 画（ 授 業 内 容 ）	授業時間外学習 予習・復習	
1.	ガイダンス・授業概要の確認	『授業要覧』を読む	
2.	『観無量寿経』とは何か（1）	ノートを作成する	
3.	『観無量寿経』とは何か（2）	ノートを作成する	
4.	化前序（1）	ノートを作成する	
5.	化前序（2） 小テスト	ノートを作成する	
6.	「禁父縁」（1）	ノートを作成する	
7.	「禁父縁」（2）	ノートを作成する	
8.	「禁父縁」（3）	ノートを作成する	
9.	「禁父縁」（4）	ノートを作成する	
10.	「禁父縁」（5） 小テスト	ノートを作成する	
11.	「禁母縁」（1）	ノートを作成する	
12.	「禁母縁」（2）	ノートを作成する	
13.	「禁母縁」（3）	ノートを作成する	
14.	「禁母縁」（4）	ノートを作成する	
15.	「禁母縁」（5） 小テスト	ノートを作成する	
教科書	『真宗聖教全書一』、『真宗聖典』、『新漢語林』、『岩波仏教辞典』		
参考書	『現代の聖典』東本願寺出版		
学習成果の 評価方法	「受講態度」〔読みのテストやノートチェック〕（70％）、「小テスト」（30％）		
特記すべき 事項	ノートを一冊用意すること。		
質問・相談等 の 受 付	授業後、研究室、九州大谷Online等、いずれの方法でも可能です。		

科 目	仏典講読Ⅳ	開講時期 履修方法	1年後期 選択、専門科目
担当者	吉元信暁	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	浄土三部経の中の『観無量寿経』の序分をノートを作りながら漢文で読み、その内容を学んでいく。前期は「発起序」の「縁苦縁」から序分の終わりまでを読む。		
到達目標	・『観無量寿経』「序分」の終わりまでを漢文でを声に出して読むことができる。 ・『観無量寿経』「序分」の終わりまでの漢文を書き下すことができる。 ・漢和辞典や仏教辞典で経典の言葉を調べ、意味を取ることができる。		
学習成果の 評価基準	到達目標の達成度を測るために、読みのテストやノートチェックを実施し「受講態度」の評価とする。また、授業の合間に書き下し等の「小テスト」を実施し到達目標の達成度を評価する。		
	授 業 計 画（ 授 業 内 容 ）	授業時間外学習 予 習 ・ 復 習	
1.	前期の授業内容についての振り返り	前期の振り返り	
2.	「厭苦縁」（１）	ノートを作成する	
3.	「厭苦縁」（２）	ノートを作成する	
4.	「厭苦縁」（３）	ノートを作成する	
5.	「厭苦縁」（４）	ノートを作成する	
6.	「欣浄縁」（１）	ノートを作成する	
7.	「欣浄縁」（２）	ノートを作成する	
8.	「欣浄縁」（３）	ノートを作成する	
9.	「欣浄縁」（４）	ノートを作成する	
10.	「散善願行縁」（１）	ノートを作成する	
11.	「散善願行縁」（２）	ノートを作成する	
12.	「散善願行縁」（３）	ノートを作成する	
13.	「定善示観縁」（１）	ノートを作成する	
14.	「定善示観縁」（２）	ノートを作成する	
15.	「定善示観縁」（３）	ノートを作成する	
教科書	『真宗聖教全書一』、『真宗聖典』、『新漢語林』、『岩波仏教辞典』		
参考書	『現代の聖典』東本願寺出版		
学習成果の 評価方法	「受講態度」「読みのテストやノートチェック」（７０％）、「小テスト」（３０％）		
特記すべき 事項	ノートを一冊用意すること。		
質問・相談 の受付	授業後、研究室、九州大谷Online等、いずれの方法でも可能です。		

科 目	真宗史 I	開講時期 履修方法	1 年前期 必修、専門科目
担当者	青木 玲	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	親鸞は、平安時代末期から鎌倉時代にかけて90年の生涯を送った。では、どのような生涯を送ったのか。『宗祖親鸞聖人』に添いながら、親鸞の生涯と教えについて学ぶ。各章担当を決めて発表する。		
到達目標	発表・質疑応答を通して、親鸞の生涯が理解できるようになる。		
学習成果の 評価基準	授業での発表・質疑応答を「受講態度」の評価とする。 到達目標に達しているか確認するために、到達目標確認試験を行い評価する。		
	授 業 計 画（ 授 業 内 容 ）	授業時間外学習 予 習 ・ 復 習	
1.	授業概要	「授業要覧」を読む	
2.	発表資料の作り方	『宗祖親鸞聖人』の「はじめに」と「発刊について」を読む	
3.	第1章 人と生まれて①	『宗祖親鸞聖人』の該当個所を読む・発表準備	
4.	第1章 人と生まれて②	『宗祖親鸞聖人』の該当個所を読む・発表準備	
5.	第2章 発心①	『宗祖親鸞聖人』の該当個所を読む・発表準備	
6.	第2章 発心②	『宗祖親鸞聖人』の該当個所を読む・発表準備	
7.	第3章 道を求めて（1）―懸命の修学―①	『宗祖親鸞聖人』の該当個所を読む・発表準備	
8.	第3章 道を求めて（1）―懸命の修学―②	『宗祖親鸞聖人』の該当個所を読む・発表準備	
9.	第4章 道を求めて（2）―六角堂参籠―①	『宗祖親鸞聖人』の該当個所を読む・発表準備	
10.	第4章 道を求めて（2）―六角堂参籠―②	『宗祖親鸞聖人』の該当個所を読む・発表準備	
11.	第5章 本願に帰す①	『宗祖親鸞聖人』の該当個所を読む・発表準備	
12.	第5章 本願に帰す②	『宗祖親鸞聖人』の該当個所を読む・発表準備	
13.	第5章 本願に帰す③	『宗祖親鸞聖人』の該当個所を読む・発表準備	
14.	到達目標確認試験	前期の復習	
15.	前期のまとめ	前期の復習	
教科書	『真宗聖典』『宗祖親鸞聖人』『親鸞聖人行実』		
参考書			
学習成果の 評価方法	受講態度（50％）到達目標確認試験（50％）		
特記すべき 事 項			
質問・相談等 の 受 付			

科 目	真宗史Ⅱ	開講時期 履修方法	1年後期 必修、専門科目
担当者	青木 玲	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	親鸞は、平安時代末期から鎌倉時代にかけて90年の生涯を送った。では、どのような生涯を送ったのか。『宗祖親鸞聖人』に添いながら、親鸞の生涯と教えについて学ぶ。各章担当を決めて発表する。		
到達目標	発表・質疑応答を通して、親鸞の生涯が理解できるようになる。		
学習成果の 評価基準	授業での発表・質疑応答を「受講態度」の評価とする。 到達目標に達しているか確認するために、到達目標確認試験を行い評価する。		
	授 業 計 画（ 授 業 内 容 ）	授業時間外学習 予 習 ・ 復 習	
1.	第6章 法難①	『宗祖親鸞聖人』の該当箇所を読む・発表準備	
2.	第6章 法難②	『宗祖親鸞聖人』の該当箇所を読む・発表準備	
3.	第7章 民衆にかえる①	『宗祖親鸞聖人』の該当箇所を読む・発表準備	
4.	第7章 民衆にかえる②	『宗祖親鸞聖人』の該当箇所を読む・発表準備	
5.	第8章 大悲に生きる（1）愚者になりて①	『宗祖親鸞聖人』の該当箇所を読む・発表準備	
6.	第8章 大悲に生きる（1）愚者になりて②	『宗祖親鸞聖人』の該当箇所を読む・発表準備	
7.	第8章 大悲に生きる（2）正定聚に住す①	『宗祖親鸞聖人』の該当箇所を読む・発表準備	
8.	第8章 大悲に生きる（2）正定聚に住す②	『宗祖親鸞聖人』の該当箇所を読む・発表準備	
9.	第8章 大悲に生きる（5）善鸞義絶①	『宗祖親鸞聖人』の該当箇所を読む・発表準備	
10.	第8章 大悲に生きる（5）善鸞義絶②	『宗祖親鸞聖人』の該当箇所を読む・発表準備	
11.	第9章 仏道に捧ぐ①	『宗祖親鸞聖人』の該当箇所を読む・発表準備	
12.	第9章 仏道に捧ぐ②	『宗祖親鸞聖人』の該当箇所を読む・発表準備	
13.	第9章 仏道に捧ぐ③	『宗祖親鸞聖人』の該当箇所を読む・発表準備	
14.	到達目標確認試験	後期の復習	
15.	後期のまとめ	後期の復習	
教科書	『真宗聖典』『宗祖親鸞聖人』『親鸞聖人行実』		
参考書			
学習成果の 評価方法	受講態度（50％）到達目標確認試験（50％）		
特記すべき 事項			
質問・相談 の 受 付			

科 目	人権論Ⅱ	開講時期 履修方法	1年後期 選択、専門科目
担当者	木屋行深	授業形態 単位数	講義 2単位
授業概要	人間の解放を課題にしている方々に直接出会い、話を聞くことで、人権感覚を学び育てる。		
到達目標	一人の人間に深く出会おうとする。気づき、意欲を持てるようになる。		
学習成果の 評価基準	他者もしくは自己についての気づき（悲しみ）を評価するため、定期試験（レポート）を実施する。		
	授 業 計 画（ 授 業 内 容 ）	授業時間外学習 予習・復習	
1.	人権とは何か（基礎学習）①	「授業要覧」を読む	
2.	人権とは何か（基礎学習）②	配付資料を読む	
3.	オリエンテーション② 自己の課題について確認（1）	配付資料を読む	
4.	オリエンテーション③ 自己の課題について確認（2）	配付資料を読む	
5.	部落解放部門 特別講義① ジェンダーについて	配付資料を読む	
6.	上記講義の確認・復習	配付資料を読む	
7.	部落解放部門 特別講義② 部落問題について	配付資料を読む	
8.	上記講義の確認・復習	配付資料を読む	
9.	部落解放部門 特別講義① ハンセン病問題について	配付資料を読む	
10.	上記講義の確認・復習	配付資料を読む	
11.	全国水平社の創立とその精神①	『部落問題学習資料集』を読む	
12.	全国水平社の創立とその精神②	『部落問題学習資料集』を読む	
13.	「米田富の怒り」について	『部落問題学習資料集』を読む	
14.	異るを歎く	『部落問題学習資料集』を読む	
15.	まとめ	後期の復習	
教科書	『部落問題学習資料集』		
参考書			
学習成果の 評価方法	受講態度（10％） 定期試験（90％）		
特記すべき 事項			
質問・相談等 の受付			

科 目	宗 教 学	開講時期 履修方法	1 年前期 選択、専門科目
担当者	東 道 成	授業形態 単位数	講義 2単位
授業概要	聖書を読む—旧約「出エジプト記」。宇宙は全知全能の唯一神によって創造され、人間世界の歴史も始まった（「創世記」）。「出エジプト記」では指導者モーセのもとで神との契りを深めて、苦難の地エジプトを脱して、再び安住の地カナンへ戻る過程が示される。		
到達目標	旧約聖書における唯一神ヤハウェは、救済される側の人間（ユダヤ人）との深い結びつきを求める。それが契約（モーセの十戒）であり、それは厳格な律法として存在する。このような宗教の働きかけを理解することは「人間とは何か」への考察を深める。		
学習成果の 評価基準	「人間とは何か」への考察を測るため、定期試験を実施し6割の正答を求める。		
	授 業 計 画（ 授 業 内 容 ）	授業時間外学習 予 習 ・ 復 習	
1.	オリエンテーション（授業の方向づけ）、キリスト教を学ぶにあたり	「聖書」とは。旧約、新約	
2.	「創世記」1, 2：天地創造、人の誕生、歴史の開始	最初の七日、男と女	
3.	「創世記」3, 4：蛇の誘惑、カインとアベル	エデンの園、罪と罰	
4.	「創世記」5, 6：アダムの子孫、洪水	エバ、アダム、ノア	
5.	「創世記」7, 8, 9：破壊と再生、祝福と契約	鳩、カラス、虹	
6.	「創世記」10, 11, 12：バベルの塔、アブラムの召命	系図、言葉	
7.	「創世記」13, 14, 15：豊かなエジプト、神の約束	契約、犠牲	
8.	「創世記」16, 17, 18：契約と割礼、イサクの誕生	アブラハム、イサク	
9.	「創世記」19, 20：ソドムの滅亡、ロトの娘たち	ロト、ゲラル	
10.	「創世記」21, 22, 23：アブラハム、イサクをささげる	キルケゴール、サラの死	
11.	「創世記」24, 25：イサクとリベカの結婚、アブラハムの死	エサウとヤコブ	
12.	「創世記」26, 27：井戸をめぐる戦い、リベカの計略	悔しがるエサウ	
13.	「創世記」28, 29：ヤコブの結婚、ヤコブの子孫	レア、ラケル	
14.	「創世記」30, 31：ヤコブの脱走、ラバンの追跡	ヤコブとラバンの契約	
15.	今までのまとめ	これからの展開	
教科書	『聖書—新共同訳—』（日本聖書協会刊）		
参考書			
学習成果の 評価方法	受講態度（30％） 定期試験（60％） 授業内発表（30％）		
特記すべき 事項			
質問・相談等 の 受 付			

科 目	声明作法Ⅰ	開講時期 履修方法	1年前期 選択、専門科目
担当者	竹下秀覚	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	「声明作法Ⅰ」では、真宗大谷派の勤行で基本的な形式である「正信偈・念佛・和讃・御文」を演習という形で行う。主に「正信偈草四句目下・念佛和讃三淘・御文・同朋奉賛式」の読み方を学ぶ。		
到達目標	お聖教を唱和することの大切さを感じることが出来るようになる。 正確に読めるようになる。		
学習成果の 評価基準	到達目標に明示している「お聖教の唱和の大切さ」「正確に読む」の達成度を測るために、到達度確認テストを実施し評価する。		
	授 業 計 画（ 授 業 内 容 ）	授業時間外学習 予習・復習	
1.	自己紹介、正信偈草四句目下、同朋奉賛式	教材確認、授業の復習	
2.	正信偈草四句目下、同朋奉賛式	授業の復習	
3.	正信偈草四句目下 同朋奉賛式	授業の復習	
4.	正信偈草四句目下、念佛和讃三淘（弥陀成仏のこのかたは）	授業の復習	
5.	正信偈草四句目下、念佛和讃三淘（弥陀成仏のこのかたは）	授業の復習	
6.	正信偈草四句目下、念佛和讃三淘（弥陀成仏のこのかたは）	授業の復習	
7.	正信偈草四句目下、念佛和讃三淘（弥陀成仏のこのかたは）	授業の復習	
8.	正信偈草四句目下、念佛和讃三淘（弥陀成仏のこのかたは）	授業の復習	
9.	正信偈草四句目下、念佛和讃三淘（弥陀成仏のこのかたは）	授業の復習	
10.	正信偈草四句目下、念佛和讃三淘（弥陀成仏のこのかたは）	授業の復習	
11.	正信偈草四句目下、念佛和讃三淘（弥陀成仏のこのかたは）	授業の復習	
12.	正信偈草四句目下、念佛和讃三淘（弥陀成仏のこのかたは）御文	授業の復習	
13.	正信偈草四句目下、念佛和讃三淘（弥陀成仏のこのかたは）御文	授業の復習	
14.	正信偈草四句目下、念佛和讃三淘（弥陀成仏のこのかたは）御文	授業の復習	
15.	正信偈草四句目下、念佛和讃三淘（弥陀成仏のこのかたは）御文	授業の復習	
教科書	大谷声明集、御文稽古本、真宗の儀式		
参考書			
学習成果の 評価方法	受講態度 20% 達成度確認 20% 定期試験 60%		
特記すべき 事項			
質問・相談 の 受 付			

1-19			
科 目	声明作法Ⅱ	開講時期 履修方法	1年後期 選択、専門科目
担当者	竹下秀覚	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	「声明作法Ⅱ」では、真宗大谷派の勤行で基本的な形式である「正信偈・念佛・和讃・御文」を演習という形で行う。主に「正信偈真四句目下・念佛和讃五淘・御文・伽陀」の読み方を学ぶ。		
到達目標	お聖教を唱和することの大切さを感じることが出来るようになる。 正確に読めるようになる		
学習成果の 評価基準	到達目標に明示している「お聖教の唱和の大切さ」「正確に読む」の達成度を測るために、到達度確認テストを実施し評価する。		
	授 業 計 画（ 授 業 内 容 ）	授業時間外学習 予習・復習	
1.	正信偈真四句目下、同朋奉賛式	授業の復習	
2.	正信偈真四句目下、同朋奉賛式	授業の復習	
3.	正信偈真四句目下、同朋奉賛式	授業の復習	
4.	正信偈真四句目下、念佛和讃五淘（弥陀大悲の誓願）	授業の復習	
5.	正信偈真四句目下、念佛和讃五淘（弥陀大悲の誓願）	授業の復習	
6.	正信偈真四句目下、念佛和讃五淘（弥陀大悲の誓願）	授業の復習	
7.	正信偈真四句目下、念佛和讃五淘（弥陀大悲の誓願）装束	授業の復習	
8.	正信偈真四句目下、念佛和讃三淘（弥陀大悲の誓願）	授業の復習	
9.	正信偈真四句目下、念佛和讃三淘（弥陀大悲の誓願） 伽陀	授業の復習	
10.	正信偈真四句目下、念佛和讃三淘（弥陀大悲の誓願） 伽陀	授業の復習	
11.	正信偈真四句目下、念佛和讃三淘（弥陀大悲の誓願） 伽陀	授業の復習	
12.	正信偈真四句目下、念佛和讃三淘（弥陀大悲の誓願）御文	授業の復習	
13.	正信偈真四句目下、念佛和讃三淘（弥陀大悲の誓願）御文	授業の復習	
14.	正信偈真四句目下、念佛和讃三淘（弥陀大悲の誓願）御文	授業の復習	
15.	正信偈真四句目下、念佛和讃三淘（弥陀大悲の誓願）御文	授業の復習	
教科書	大谷声明集、御文稽古本、真宗の儀式		
参考書			
学習成果の 評価方法	受講態度 20% 達成度確認 20% 定期試験 60%		
特記すべき 事項			
質問・相談等 の 受 付			

科 目	教化学実習 I	開講時期 履修方法	1 年前期 必修、専門科目
担当者	調 友希雄	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	1、2年生合同で、「夏の法要」に向けた企画・学習・準備などを行い、計画に基づいて実施する。共同して一つの法要に取り組んでいくことを通して、現場に必ずる学びを深めていく。		
到達目標	法要の概要や目的を理解することができる。 協働して法要を勤めることができるようになる。		
学習成果の 評価基準	「法要概要や目的を理解することができる」の達成度を測るために、到達度確認テスト（期末レポート）を実施し評価する。 授業での積極的なグループ活動（法要の企画、学習、準備など）を「受講態度」の評価とし、「協働して法要を勤めることができるようになる」の達成度を測る。		
	授 業 計 画（ 授 業 内 容 ）	授業時間外学習 予 習 ・ 復 習	
1.	ガイダンス 概要の確認と係の決定	「授業要覧」を読む	
2.	事前準備① 法要の企画を行う（1）	係ごとの話し合いや学習への取り組み	
3.	事前準備② 法要の企画を行う（2）	係ごとの話し合いや学習への取り組み	
4.	事前準備③ 法要の学習を考える（1）	係ごとの話し合いや学習への取り組み	
5.	事前準備④ 法要の学習を考える（2）	係ごとの話し合いや学習への取り組み	
6.	事前準備⑤ 勤行の練習をする（1）	係ごとの話し合いや学習への取り組み	
7.	事前準備⑥ 勤行の練習をする（2）	係ごとの話し合いや学習への取り組み	
8.	事前準備⑦ 勤行の練習をする（3）	係ごとの話し合いや学習への取り組み	
9.	事前準備⑧ 法要の準備を行う（1）	係ごとの話し合いや学習への取り組み	
10.	事前準備⑨ 法要の準備を行う（2）	係ごとの話し合いや学習への取り組み	
11.	事前準備⑩ 法要の準備を行う（3）	係ごとの話し合いや学習への取り組み	
12.	事前準備⑪ 法要のリハーサルを行う	係ごとの話し合いや学習への取り組み	
13.	夏の法要① 讃歌（真宗宗歌、回向、恩徳讃）、勤行（「正信偈」草四句目下、三洵）、学習発表、講話など	夏の法要の要項をもとに準備を行う	
14.	夏の法要② 讃歌（真宗宗歌、回向、恩徳讃）、勤行（「正信偈」草四句目下、三洵）、学習発表、講話	夏の法要の要項をもとに準備を行う	
15.	事後総括 法要を総括する	係ごとの話し合い	
教科書			
参考書			
学習成果の 評価方法	受講態度（70％） その他【期末レポート】（30％）		
特記すべき 事項			
質問・相談等 の 受 付			

科 目	教化学実習Ⅱ	開講時期 履修方法	1年後期 必修、専門科目
担当者	調 友希雄	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	1、2年生合同で、仏教学科報恩講（冬の法要）に向けた企画・学習・準備などを行い、計画に基づいて実施する。事前準備・法要を通して、1年間あるいは2年間の学びを総括する。		
到達目標	法要の概要や目的を理解することができる。 協働して法要を勤めることができるようになる。		
学習成果の 評価基準	「法要概要や目的を理解することができる」の達成度を測るために、到達度確認テスト（期末レポート）を実施し評価する。授業での積極的なグループ活動（法要の企画、学習、準備など）を「受講態度」の評価とし、「協働して法要を勤めることができるようになる」の達成度を測る。		
	授 業 計 画（ 授 業 内 容 ）	授業時間外学習 予習・復習	
1.	ガイダンス 概要の確認と係の決定	「授業要覧」を読む	
2.	事前準備① 法要の企画を行う（1）	係ごとの話し合いや学習への取り組み	
3.	事前準備② 法要の企画を行う（2）	係ごとの話し合いや学習への取り組み	
4.	事前準備③ 法要の学習を考える（1）	係ごとの話し合いや学習への取り組み	
5.	事前準備④ 法要の学習を考える（2）	係ごとの話し合いや学習への取り組み	
6.	事前準備⑤ 勤行の練習をする（1）	係ごとの話し合いや学習への取り組み	
7.	事前準備⑥ 勤行の練習をする（2）	係ごとの話し合いや学習への取り組み	
8.	事前準備⑦ 勤行の練習をする（3）	係ごとの話し合いや学習への取り組み	
9.	事前準備⑧ 法要の準備を行う（1）	係ごとの話し合いや学習への取り組み	
10.	事前準備⑨ 法要の準備を行う（2）	係ごとの話し合いや学習への取り組み	
11.	事前準備⑩ 法要の準備を行う（3）	係ごとの話し合いや学習への取り組み	
12.	事前準備⑪ 法要のリハーサルを行う	係ごとの話し合いや学習への取り組み	
13.	仏教学科報恩講（冬の法要）① 讃歌（真宗宗歌、回向、恩徳讃）、勤行（「正信偈」真四句目下、五洵）、学習発表、法話など	冬の法要の要項をもとに準備を行う	
14.	仏教学科報恩講（冬の法要）② 讃歌（真宗宗歌、回向、恩徳讃）、勤行（「正信偈」草四句目下、五洵）、学習発表、法話など	冬の法要の要項をもとに準備を行う	
15.	事後総括 法要を総括する	係ごとの話し合い	
教科書			
参考書			
学習成果の 評価方法	受講態度（70％） その他【期末レポート】（30％）		
特記すべき 事項			
質問・相談 の受付			